

# 博物館だより

No.24

平成 20 年 4 月 1 日  
 みやこ町歴史民俗博物館発行  
 福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13  
 TEL 0930-33-4666  
 FAX 0930-33-4667

## 豊前地方の 近世・近代文書展Ⅲ 開催中

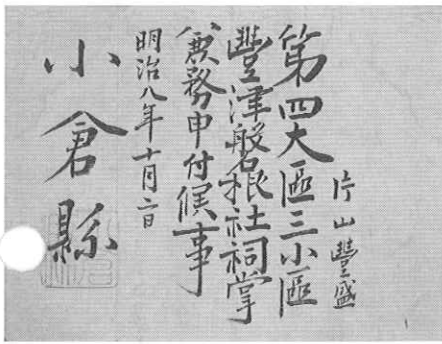
現在、当館では春の企画展「豊前地方の近世・近代文書展Ⅲ」を開催しています。

今回の企画展では、当館に寄託されている片山家文書（片山豊孝氏所蔵）約1500点の中から50点ほどを展示しています。

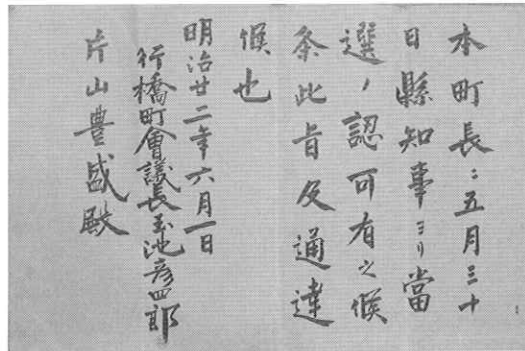
片山家は、旧仲津郡元永村（現行橋市）の須佐神社（今井津祇園社）・太祖大神社（妙見社）の神職をつとめていた家で、所蔵する古文書類は、江戸・明治・大正時代の豊前地方の歴史を知るうえで欠かせないものが数多く含まれています。

多くが今回初公開の史料です。ぜひ、ご来館ください。

【開催期間】  
 平成20年4月27日（日）まで  
 【開催場所】  
 当館中央展示室



▲豊津磐根社祠掌兼務辞令（明治8年）



▲行橋町長当選通知（明治22年）

### 【展示品】

- ◎片山家文書
- 神道裁許状（江戸期の神職免許状）
- 行橋町長当選通知（明治22年）
- 旧制豊津中学校育英会史料 他

### 4月期歴史講座のご案内

- 【漢詩文講座】  
 4月5日（土） 9:30
- 【古文書講座】  
 4月12日（土） 10:00
- 【みやこ学講座】  
 4月19日（土） 10:00
- 【金曜古文書講座】  
 4月25日（金） 10:00
- 【古典かな講座】  
 4月26日（土） 9:30

## 博物館友の会 会員募集

みやこ町歴史民俗博物館友の会では、平成20年度の会員を募集しています。

友の会は「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」をモットーに、講演会やバスハイク、史跡めぐりなどの行事を行なっています。平成19年度の会員数は約200名で、行政等からの補助金は受けず、会費のみの独立採算で運営しています。興味のある方なら、どなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会ください。

- ♪入会の方法  
 博物館窓口で会費を納めてください。博物館の窓口まで来るのが難しい方はご一報ください。
- ♪年会費
- ・個人会員 3,000円
  - ・家族会員 1名につき 2,000円

- ♪その他
- ・年度途中からの入会も可能。
  - ・町外の方でも入会できます。
- ♪お問い合わせ先  
 みやこ町歴史民俗博物館内  
 友の会事務局  
 TEL 0930-33-4666



## 《古文書解読コーナー》

① 豊

〈ヒント〉よく話し合う

② 左木

〈ヒント〉綿織物・麻織物

③ 行橋

〈ヒント〉引きのばす

④ 実産

〈ヒント〉異常な現象

⑤ 玉雨帆

〈ヒント〉外国船

◎ 答え

（反対向きに見てください）

- ① 豊 豊
- ② 左木 左木
- ③ 行橋 行橋
- ④ 実産 実産
- ⑤ 玉雨帆 玉雨帆

知ってるつもりでのヒト・モノ・コトに意外なドラ...

# みやこの歴史発見伝⑬

## 江戸時代の善行者

### 毛利正春編著『孝義旌表録』の紹介②

#### 小笠原文庫所蔵『孝義旌表録』

田川郡糸村(現田川市位登)の神官・毛利正春が編纂した『孝義旌表録』は、小倉藩内における善行者の記録・伝説を調査し、収録した書物です。毛利正春は、郡代(農村支配の最高責任者)河野四郎の賛助を得て、文久二年(一八六二)から聞き取り調査を開始し、慶応二年(一八六六)に至ってその成果を冊子にまとめました。

完成した『孝義旌表録』は藩に献上されましたが(毛利正春墓石刻文より)、残念ながら、その殆どは失われており、唯一、小笠原文庫(育徳館高等学校錦陵同窓会所蔵)のなかに田川郡のものが三冊(前編・後編・略伝)と京都郡・仲津郡の『略伝』が各一冊の計五冊残っているだけです。また、田川郡の三冊は、その体裁等から写しの可能性が高いので、藩に献上された原本で現在が確認できるのは、京都郡・仲津郡の『略伝』二冊だけです。

『孝義旌表録』は本編(前編・後編各六冊)のほかにも数種の附録本が作

成されたようです。その附録本のうち『略伝』は、本編よりも掲載する人物を絞り、文章も簡潔にした、いわばダイジェスト版です。また、挿絵を入れて絵本風に仕上げているのも『略伝』の特徴です。

この『略伝』の挿絵を描いたのは仲津郡大橋村(現行橋市)出身の柏木蜂溪(生年未詳。明治二二三年頃没。初め豊溪)という人物です。蜂溪は、小倉の四条派画家に学んだ

絵師で、安政四年(一八五七)に小倉藩の支藩・新田藩に召し抱えられ(国作手永大庄屋安政四年日記二月二九日条)、これにともない、小倉城下へ転居したようです(同前史料五月一六日条)。しかし、六年後の文久三年(一八六三)に再度、「渡世方出来兼」

(生活が出来ない)との理由で大橋村から小倉城下へ転居するので(国作手永大庄屋文久三年日記二月二九日条)、ごく短期間のうちに新田藩の召し抱えを解かれ、小倉から大橋村に戻っていたのでしよう。『略伝』の挿絵を描いたのは、それから再び小倉へ転居した後のことと思われるます。ただ、毛利正春と柏木蜂溪との接点は今のところ分かりません。残っていた『孝義旌表録』稿

ところで、昭和七年(一九三二)から一六年(一九四二)にかけて歴史家・伊東尾四郎氏(一八六九、一九四九)が編集し、福岡県が刊行した『福岡県史資料』全二巻のうち続第一輯(伝記編二)に、小笠

原には現存しない『孝義旌表録』が活字化されています。その内容は、①『孝義旌表録日録』、②京都郡・仲津郡・築城郡の『孝義旌表録』本編、③上毛郡・企救郡・田川郡の『孝義旌表録』、④『孝義二十八人伝』(小倉城下分のみ)で、

いずれも所在が分からず、郷土史家の間では、既に戦災などで失われたものと思われていました。ところが最近、(財)西日本文化協会・福岡県地域史研究所(福岡市中央区)に『福岡県史資料』掲載のものをはじめする『孝義旌表録』本編・附録本が一八点所蔵されていることが分かりました。聞くと、伊東尾四郎氏のご遺族より寄贈されたものとのことであり、当博物館ではつい先日写真撮影をさせていただきますました。

内容の分析はまだ途中ですが、現時点で分かっていたのは、福岡県地域史研究所本は、大半に加除訂正の書き込みがあること等から、

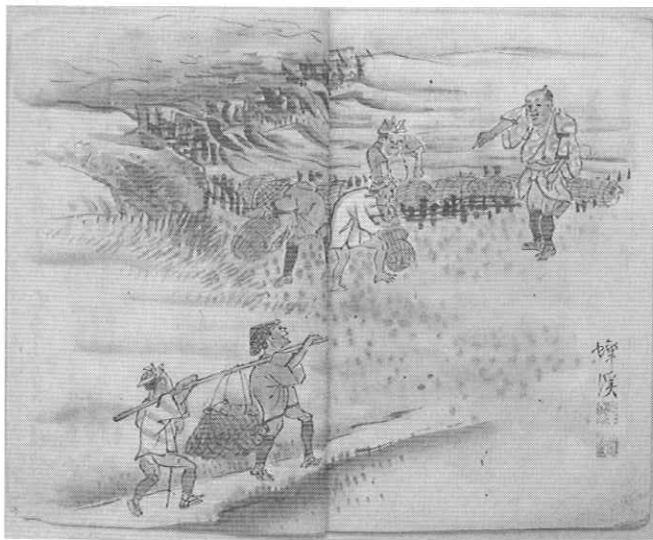


▲『孝義旌表録略伝 企救郡』(福岡県地域史研究所蔵)「中村平右衛門 伝」の挿絵

元々は毛利正春の所持していた原稿あるいは控えと考えられることです。具体的な経緯は不明ですが、それが毛利家から、ある素封家の手に渡り、その後、伊東尾四郎氏の所蔵するところとなった模様です。いずれにしても、藩に献上されたものの殆どが失われていることから、毛利正春の『孝義旌表録』編纂事業の全体像が分かる貴重な史料です。

なお、福岡県地域史研究所本の『略伝』の一部にも下書き風の挿絵があります。これも柏木蜂溪の筆によるものかどうか、出来る範囲で今後調べてみたいと思います。

(川本英紀)



▲『孝義旌表録略伝 仲津郡』(小笠原文庫蔵)「横瀬村 吉田又三郎 伝」の挿絵。柏木蜂溪筆。